



れんげそう

令和7年6月30日
福生第五小学校
学校通信第575号

一期一会

校長 泉田 巧人

6月25日(水)から27日(金)までの二泊三日、6年生と日光移動教室に行ってきました。小雨が降る出発式となりましたが、足尾銅山に着いた時には雨は降っておらず、順調に日本の銅採掘の歴史を学んできました。足尾銅山を出るときには大粒の雨が降り始め、半月山展望台で中禅寺湖の絶景は見ることはできませんでしたが、霧に包まれた幻想的な風景を見ることができました。



戦場ヶ原から見る男体山(日光移動教室にて)

二日目は、天候に恵まれとてもすがすがしい戦場ヶ原のハイキングとなりました。ネイチャーガイドさんは、植物、鳥、虫など、それぞれの専門をもった方々で、班では専門の視点を交えた案内をしてもらうことができました。子どもたちは、熱心に説明を聞いたり、質問したりして、とても楽しんでいました。中には鳥の話で盛り上がる班もありました。私と一緒に行動した班のガイドさんは虫が専門で、どんな虫を見ても「可愛い。可愛い。」と言って虫の特徴を説明してくれました。初めは虫に抵抗があった子どもたちでしたが、途中からガイドさんと同じく虫を見ては「可愛い。」と言ったり、ハナアブや蝶などを手の上に乗せたりして楽しむ子どももいました。午後は、遊覧船に乗り、中禅寺湖からの日光を満喫しました。華嚴滝では雨が降りましたが霧はなく、私が今まで見た中でも一番の水量の壮大な滝を間近で感じるすることができました。夜は栃木県の伝統工芸の「ふくべ細工」を体験し、夕顔の実に思い思いの絵を描いていました。

最終日は、日光東照宮に行きました。最初に「鳴竜」を見学し、神秘的な音の響きを興味深く聞いていました。その後は、班行動で「陽明門」や「本殿」、「眠り猫」、「三猿」、「想像の象」等、国宝や重要文化財を、事前に学習し自分たちがガイドとなって班のみんなに説明しました。

今回の移動教室で、私の心に残ったことを一つ紹介します。それは、ハイキングの際に私が同行した班のネイチャーガイドさんの、「あの人たちは、本当に自然を楽しめたのかな。」というつぶやきです。それは、自然を見ずに大声で友達との話に盛り上がる、班同士で競争して走り抜けていく、寄ってくるハナアブ等の昆虫を追い払うなど、他の学校の児童の行動を見た後の一言でした。人の手が入っていない自然豊かな戦場ヶ原の湿原では、様々な植物や生き物等に会うことができます。その自然の貴重さや生き物の習性や特徴等が分からなければ、学習にもならず記憶にも残らない、ただ行って来たという事実が残るだけです。学習する場をきちんと設定することが必要であり、それが教育であると感じました。

日光移動教室では、様々な人々や、日光の歴史、文化、自然との出会いがありました。その一つ一つは、その時にしかない出会いであり、その時にしかない学びです。ガイドさんが言った言葉の「楽しむ」とは、その時、そこでしかできないことを、どう学ぶかのではないのかと感じました。

これは日々の学校の生活や学習でも同じことがいえると思います。その時の学びとの出会いをどう「楽しむ」ことができるか。これを教員と子どもがきちんと理解し、一つ一つの学びを大切にすることが必要です。「一期一会」その時にしかない出会いや機会を大切に、「楽しむ」ことができるよう、教育活動を充実させていきたいと改めて感じた出来事でした。